

## II 教 育 計 画

# 看護学科

**< 人間 >**

生理的心理的平衡状態を維持しようとする機能をもつ。さまざまな欲求を抱いてそれを満たそうとする自立的、社会的な存在である。

欲求のもち方、満たされ方は、経験や状況によって変わっていく。

**< 環境 >**

人間を取り巻く自然環境と人間を中心とする社会環境という外部環境と、内部環境がある。環境と人間は、相互に関連しあい、諸条件のなかで変化し続け、人間の生活に影響する。

**< 人間の生活と暮らし >**

生活は、具体的な行動を示す。暮らしは、時間軸が長く、状態、生きていくあるいは変化していく様、信条などが含まれる。

24時間の連續の繰り返しのリズムをもっており、人間の一生はその連續である。時の流れの中で、その人固有の生き方と生活習慣を作り出し、具体的な日常生活行動となって表れる。その人の生活のあり様が健康に影響する。

**< 健康 >**

個別的で流動的なものであり、その人の命をまとうするために、その人が作り上げていく生活のことである。健康自体が目的ではなく、その人が命をまとうするために、その人の固有のあり方で生活を続けられる方法のことである。

**< 看護 >**

対象はあらゆる年代の地域に暮らす人や家族である。対象の背景を考えながらあらゆる手段を尽くして健康を支援することである。

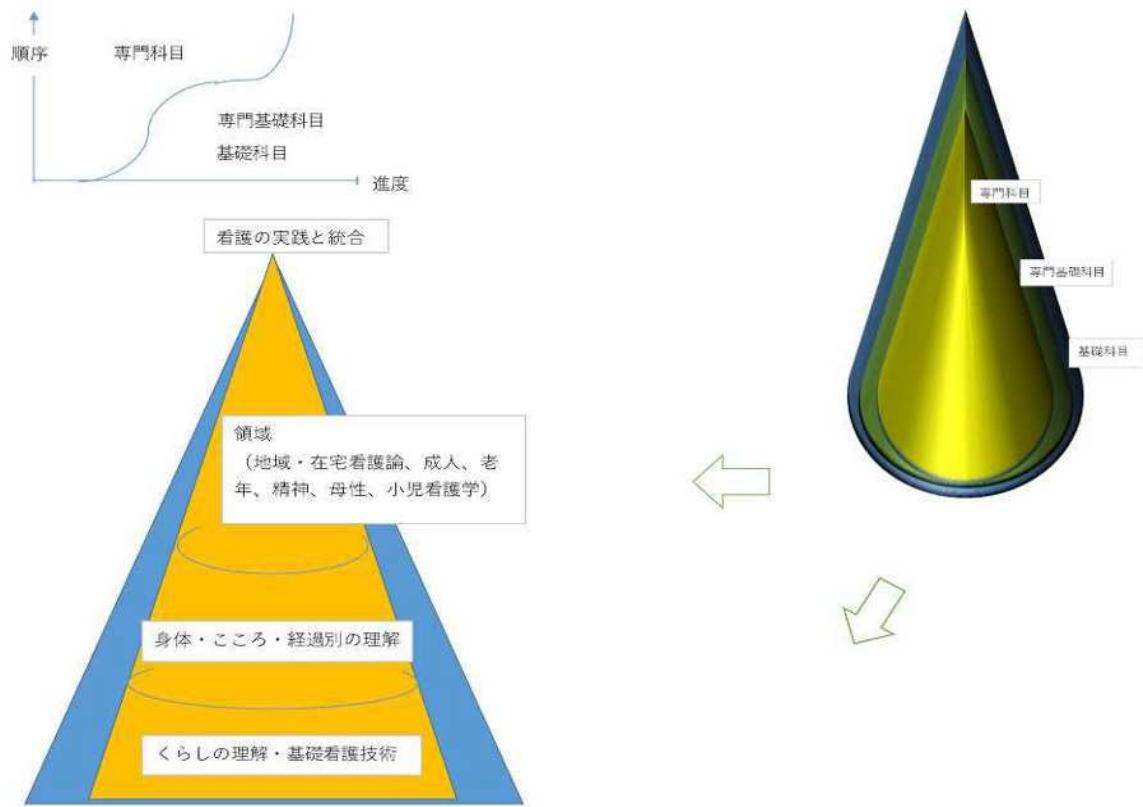
**< 教育 >**

個々の体験を自分なりに意味づけをして、自己のつくりかえを支援していくことである。人間としてよりよく生きるために、その人の主体性を意図的に引き出す働きである。学生は、自ら学ぼうとする姿勢を持ち、一人の人間として尊重される存在である。また、学習のなかで物事の意味づけをし、価値観や自己のパーソナリティの形成過程にある。教師は、学生の個性を尊重し、主体的に行動できるように動機づけ、支援するとともに教師としての能力を向上させていくものである。ゆえに教育は、教師と学生一人ひとりが人間として育ちつつ、互いに人間として創りつくられていく教授－学習過程である。

### < 看護専門職者とは >

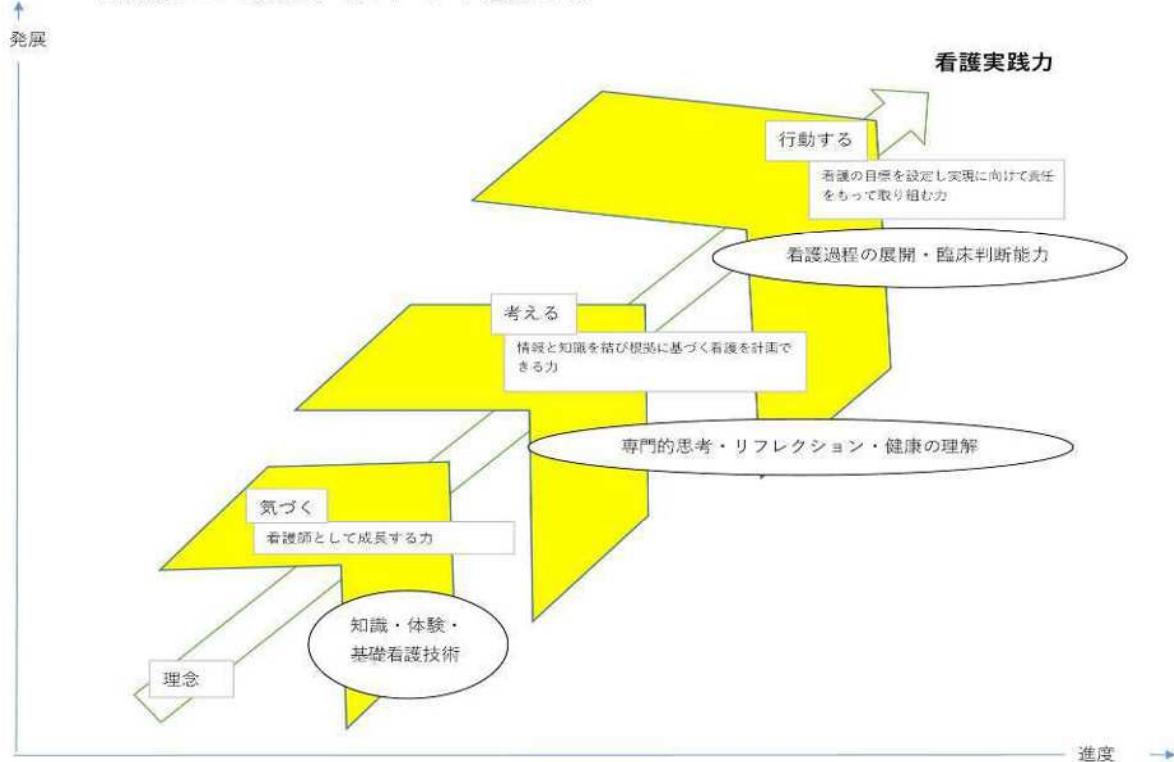
- ① 体系化された専門的知識・技術をもっている。
- ② 援助的人間関係の形成ができる。
- ③ 他職種との連携・協働ができる。
- ④ 科学的・論理的思考にうらうちされた看護観をもっている。
- ⑤ 倫理観に基づいた看護実践者である。
- ⑥ 自己研鑽し続ける自律した職業人として社会に貢献する。

## 2 カリキュラムの構造図 (看護学科)



### 清水看護専門学校で身につけたい力とつける力と科目例

図の説明: □: つける力 ○: キーワードあるいは科目



## 3 令和7年度(31期生)

## 看護学科学科進度表(単位・時間)

授業科目		単位数	時間数	1年				2年				3年				
				前期		後期		前期		後期		前期		後期		
				単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間	
基礎分野	科学的思考の基盤	1	30	1	30											
	生活行動科学	1	30			1	30									
	教育学	1	15					1	15							
	情報リテラシー	1	30	1	30											
	英会話	1	30					1	30							
	医療英語	1	15													
	キャリアデザイン	1	15			1	15									
	生物学	1	30	1	30											
	心理学	1	30					1	30							
	人間関係論	1	30	1	30											
	生命倫理学	1	30					1	30							
	社会学	1	30					1	30							
	健康とスポーツ	1	30	1	30											
	静岡地域学	1	15	1	15											
	小計	14	360	6	165	2	45	5	135	0	0	1	15	0	0	0
専門基礎分野	人体の構造と機能	形態機能学Ⅰ	1	30	1	30										
	形態機能学Ⅱ	1	30	1	30											
	形態機能学Ⅲ	1	30			1	30									
	形態機能学Ⅳ	1	15			1	15									
	看護臨床判断の基礎	1	30			1	30									
	生化学	1	30	1	30											
	栄養学	1	30			1	30									
	微生物学	1	30	1	30											
	薬理学	1	30					1	30							
	臨床薬理学	1	30							1	30					
	臨床医学特論	1	30					1	30							
	病理学	1	30			1	30									
	病態生理学Ⅰ	1	30			1	30									
	病態生理学Ⅱ	1	30			1	30									
	病態生理学Ⅲ	1	30					1	30							
	病態生理学Ⅳ	1	30					1	30							
	総合医療論	1	15	1	15											
	公衆衛生	1	15									1	15			
	社会福祉論Ⅰ	1	15							1	15			1	15	
	社会福祉論Ⅱ	1	15									1	15			
	暮らしのしくみ	1	30			1	30									
	医療関係法律論	1	15							1	15					
	小計	22	570	5	135	8	225	4	120	3	60	2	30	0	0	0
専門分野	基礎看護学	看護学概論	1	30	1	30										
	看護管理	1	15										1	15		
	看護の方法Ⅰ	1	30	1	30											
	看護の方法Ⅱ	1	30	1	30											
	看護の方法Ⅲ	1	30	1	30											
	看護の方法Ⅳ	1	30	1	30											
	看護の方法Ⅴ	1	30			1	30									
	看護の方法Ⅵ	1	30			1	30									
	看護の方法Ⅶ	1	15			1	15									
	看護過程演習	1	30			1	30									
	看護研究	1	30												1	30
	地域・在宅看護論	1	15	1	15											
	地域・在宅看護論演習	2	45			2	45									
	地域・在宅看護の方法Ⅰ	1	30					1	30							
	地域・在宅看護の方法Ⅱ	1	30							1	30					
	地域・在宅看護の方法Ⅲ	1	30									1	30			
成人看護学	成人看護学概論	1	15			1	15									
	成人看護の方法Ⅰ	1	30					1	30							
	成人看護の方法Ⅱ	1	30					1	30							
	成人看護の方法Ⅲ	1	30							1	30					
	成人看護の方法Ⅳ	1	30							1	30					
	成人看護の方法Ⅴ	1	30							1	30					
老年看護学	老年看護学概論	1	15			1	15									
	老年看護の方法Ⅰ	1	30					1	30							
	老年看護の方法Ⅱ	1	15							1	15					
	老年看護の方法Ⅲ	1	30							1	30					
小児看護学	小児看護学概論	1	15					1	15							
	小児看護の方法Ⅰ	1	30					1	30							
	小児看護の方法Ⅱ	1	30							1	30					
	小児看護の方法Ⅲ	1	30							1	30					
母性看護学	母性看護学概論	1	15					1	15							
	母性看護の方法Ⅰ	1	30					1	30							
	母性看護の方法Ⅱ	1	30							1	30					
	母性看護の方法Ⅲ	1	30							1	30					

精神看護学	精神看護学概論	1	30	1	30									
	精神看護の方法Ⅰ	1	15					1	15					
	精神看護の方法Ⅱ	1	30					1	30					
	精神看護の方法Ⅲ	1	15							1	15			
看護の統合 と実践	医療安全	1	15					1	15					
	災害看護	1	15										1 15	
	国際情報論	1	30								1	30		
	看護技術の統合	1	30										1 30	
臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1	45	1	45									
	基礎看護学実習Ⅱ	2	90					2	90					
	基礎看護学実習Ⅲ	2	90							2	90			
	地域・在宅看護論実習Ⅰ	2	90			2	90							
	地域・在宅看護論実習Ⅱ	3	90								3	90		
	成人看護学実習	3	90								3	90		
	老年看護学実習Ⅰ	2	90					2	90					
	老年看護学実習Ⅱ	3	90								3	90		
	小児看護学実習	3	90								3	90		
	母性看護学実習	3	90								3	90		
	精神看護学実習	3	90								3	90		
	統合実習	3	90										3 90	
	小計	73	2130	8	240	10	270	13	360	15	480	20	585	7 195
総合計		109	3060	19	540	20	540	22	615	18	540	23	630	7 195

授業科目	単位数	時間数	1年				2年				3年			
			前期		後期		前期		後期		前期		後期	
			単位	時間										
課外活動 (行事)	入学式	6		2					2				2	
	ガイダンス	26		14					4				8	
	親睦会	12		4					4				4	
	開校30周年行事・講演会	12		2		2		2		2		2		2
	健康診断	12		2		2		2		2		2		2
	誓いの会(仮名称)	14		2				10				2		
	防災訓練	6		2				2				2		
	学年会同学習会・交流会	18		4		2		4		2		4		2
	看学祭	48				16				16				16
	国家試験対策	200		10		10		12		18		50		100
卒業式		6				2				2				2
小計		360	0	42	0	34	0	42	0	42	0	76	0	124

令和7年度生(31期生)	単位						時間						
	学年	基礎	専基	専門			合計	学年	基礎	専基	専門		合計
1	8	13	18				39	1	210	360	510		1080
2	5	7	28				40	2	135	180	840		1155
3	1	2	27				30	3	15	30	780		825
合計	14	22	73				109	合計	360	570	2130		3060

## 4 看護学科 授業科目と内容

### ◆基礎分野

科目	単位数	時間数	開講学年	開講期	ねらい	学習内容
科学的思考の基盤	7	165				
論理的思考	1	30	1	前期	<p>論理的思考力について知り、日常生活や医療現場において論理的に思考・理解・表現するための基礎力を養う。</p> <p>論理的思考力について、その基礎的な仕組みを知る。資料や新聞記事などを読み、その論理構造を理解し、批判的に捉える。理由や根拠を明確にしながら自分の考えを表現する。論理的な話し合い(議論)ができるスキルを身につける。</p>	<p>論理的思考力とは 日常生活における論理的思考の必要性、 資料を論理的に読解 帰納的思考 三角ロジックの使用、説得力がある議論・討論 反論を予想した思考の組み立て、論理的文章の作成、批評 複数の新聞記事の読み比べ 論理的思考とコミュニケーション</p>
教育学	1	15	2	前期	人間の成長に関わる教育の機能について理解を深め、看護における教育的側面を理解する。学ぶことの必要性・教育方法・指導方法・評価方法を学ぶ。	<p>教育とは 教育の目的 学習動機 教育方法の原理原則、指導技術 教育評価</p>
情報リテラシー	1	30	1	前期	情報科学の基礎および看護に求められる「情報リテラシー」をはじめ、Word や Excel といったソフトの使用方法を基本とし、統計ソフトを使用しながらグラフや表作成、統計処理の基本について理解する。	<p>情報とは 文章作成の基礎、表計算の基礎 PowerPoint を用いたプレゼンテーション 看護研究の予備知識、散布図・相関係数、回帰直線と近似曲線 正規分布、統計的推定 一元配置分散分析 コンピュータの構成と基本操作 Word を利用した文書作成 Excel の基本操作 PowerPoint を利用したプレゼンテーション用スライドの作成・情報検索の基礎</p>
英会話	1	30	2	前期	日常英会話の場面・文化・生活に使われる英語を理解する。看護場面で活用できる英会話を体験的に学ぶ。良い人間関係を築くための会話のコツを学ぶ。	<p>国際共通語としての英語 日常英会話の場面・文化・生活に使われる英語</p>
医療英語	1	15	3	前期	カルテや英語文献を読める力を養う。英語文献に触れ、国際化・情報化への契機とする。	医療現場で使われる英語・英会話

	キャリアデザイン	1	15	1	後期	社会の中で自分らしさを活かした居場所と役割をもち、主体的に人生を歩むための力を養う。	キャリア形成の必要性 キャリアデザインの基礎 自分を知る 社会で必要な力 先輩に学ぶ仕事としてのキャリア、人生としてのキャリア 働くための姿勢 キャリアプランニングシートの作成
	生活行動科学	1	30	1	後期	看護技術・医療器械器具など看護に必要な物理学について理解する。 看護の方法にどのような物理的原理原則が含まれているかを学び、看護実践に活かす方法を理解する。	力の加減の基礎 体位変換の原理、トルクと体位変換。安定・不安定の条件、力学を人体に適用する摩擦、温度、熱量、水枕、融解熱、熱の移動 体熱の生産と喪失のバランス 看護における電気圧力、低圧持続吸引機の原理 血圧に関する知識、酸素ボンベ、点滴、比重 酸・アルカリと PH の原理 浸透圧、放射線
	人間と生活・社会の理解	7	195				
	生物学	1	30	1	前期	生物の生命現象を理解し、生物体としての人間理解を深める。個体の調節（恒常性）について理解する。自分の生命観を確立するきっかけとする。	細胞の構造と機能 体の構造と機能 生殖と性の多様性 遺伝 脊椎動物の初期発生 遺伝子改変技術の最先端進化
	心理学	1	30	2	前期	人の体験と行動の発生と発達の過程、法則、背景メカニズムや適応的意義など、心理学の基本的な知識を習得する。	心理学における人間理解 認知からの人間理解 行動からの人間理解 発達からの人間理解 人格からの人間理解 対人関係からの人間理解 心理臨床からの人間理解
	人間関係論	1	30	1	前期	看護の基本となる対象者との援助的人間関係、及び組織における人間関係の形成について理解を深めるとともに、基本的な対人関係に関する理論を学ぶ。また、対人関係における自己の対応パターンを確認したり、他者との信頼関係を築くための関わり方について学ぶ。	人間関係の発達 コミュニケーションとは 自己理解・他者理解 対人コミュニケーション 援助的コミュニケーション 家族への援助 家族と家族システム カウンセリングと心理療法 人間関係の理論と研究 アセション コーチング

	生命倫理学	1	30	2	前期	人間にとってのいのちの意味について理解を深める。専門職者として、生命に関わる多様な倫理的課題について自分の考えを表現し、自分と異なる考えに耳を傾け、生命の尊厳、死生観、人生観についての理解を深める。自然や環境とのかかわりから人間の生を考える。グローバルな生命倫理に対する想像力と倫理観を養う。	生命倫理概論 価値 相手を尊重すること インフォーム・ド・コンセント 人を対象とする医学研究にまつわる倫理 人生の最終段階にまつわる倫理 公衆衛生の倫理 小児医療にまつわる倫理 先端医療にまつわる倫理
	社会学	1	30	2	前期	患者や医療者・医療がおかれえた社会的背景を広い見地から理解する。 さまざまな事象を社会学的視点で捉える。 疑問点を発見し、問い合わせを立て、能動的に分析する力を身につける。	現代社会の仕組み・構造・歴史の理解 家族、ジェンダー、セクシュアリティ、仕事、死、都市、教育などの事象を社会学的視点で理解
	健康とスポーツ	1	30	1	前期	スポーツを通して、心身の健康の保持・増進を図る。 学生間の交流を図る。 感性をみがき、協調性を養い、自由で主体的な行動と判断を促す。	ラジオ体操、ストレッチ体操 リズム体操、ドッヂボール、 バレーボール（ソフトバレー） バスケット、ソフトテニス、 バトミントン、インディアカ 縄跳び
	静岡地域学	1	15	1	前期	地域創生の概念や方法、静岡の暮らしや生活を学び、自分もまちづくりの一員となる視点をもち、今後の活動を考える機会とする。	地域を創造するモノ・コト・ヒト、文化・芸術の伝承と展開 「お茶のまち静岡」の振興 多文化共生社会とコミュニティ再編、差別偏見と社会的マイノリティ、産官学連携と地域プラットフォーム、「I love しづおか協議会」と大学生

◆専門基礎分野

科目	単位数	時間数	開講学年	開講期	ねらい	学習内容
人体の構造と機能	5	135				
形態機能学 I	1	30	1	前期	病態の理解や日常生活行動を援助する看護技術の理解の基礎となる知識を学ぶ。	形態機能学とは 食べる ・嚥下・咽頭・口腔含む 食欲・食行動・咀嚼し味わう・ 飲み込む・消化と吸收・飢餓 トイレに行く ・尿意・排尿・尿の生成・体液 量調整の機構・便意・排便・排 泄動作 健康と運動の関係 関節・筋・骨のしくみ・姿勢・ 日常生活動作・行動 人間にとって眠るとは何か 睡眠・休息と健康
形態機能学 II	1	30	1	前期	病態を理解する基礎や、人間の恒常性を維持する身体のしくみを学ぶ。	恒常性維持のための調節機構 ・液性調節（ホルモンの作用機序と働き） ・神経性調節（神経系の構造と機能） 情報を得る（見る・におう・触れる） 会話する（話す・聞く）
形態機能学 III	1	30	1	後期	病態を理解する基礎や、生命活動維持の基礎となる身体のしくみを学ぶ。	体温の恒常性 流通の媒体（血液の機能） 息をする ・息を吸う・息を吐く・ガス交換・酸塩基平衡 物質の物流 ・流通路・流通の原動力・物質交換のしくみ・血圧の調整
形態機能学 IV	1	15	1	後期	看護学の視点から人体を系統立て理解する。 体の中をイメージし、説明できる。 部位の名称や臓器の名称・構造を知る。 生きていることを体の外側から測定する方法とその原理を知る。 生きていることを支える日常生活行動を知る。	お風呂に入る ・お風呂に入るためには必要な機能・垢を落とす・皮膚と付属物・皮膚と粘膜の構造と機能 ・入浴の効果・作用・注意点 性を表現する ・男と女・遺伝子組み換え・性交と受精・生殖を支えるホルモン・出産

	看護臨床判断の基礎	1	30	1	後期	臨床判断を実践するために徹底的検討法を繰り返すことで、臨床判断の基礎にあたる気づきの視点を身につける。	徹底的検討法を個人ワーク・グループワークを通して行い、知識と経験を蓄積する。
	疾病の成り立ちと回復の促進	11	330				
	生化学	1	30	1	前期	生体物質の基礎知識とその物質代謝を基にして病気や病態をとらえる。 臨床に広く応用されている生化学検査の意味を理解する。 健康ながらだがどのように機能し、維持され、調節されているか、病気がいかに成り立っているか、生化学的視点から考えられる。	代謝の基礎と酵素・補酵素 糖質の構造と機能、糖質代謝 脂質の構造と機能、脂質代謝 タンパク質の構造と機能 タンパク質代謝 遺伝子と核酸、遺伝子の複製・修復・組換え、転写、翻訳 シグナル伝達 がん
	栄養学	1	30	1	後期	【栄養学】 生体が発育・成長して健全な生命活動を営むために体外から取り入れる栄養素について学ぶ。 栄養素の体内での役割を学ぶ。  【病態栄養学】 各病態やライフステージの特徴を理解し、それに基づいた適切な栄養管理の方法を学ぶ。 食事と健康のつながりを認識し、学生自身が日々の食事への関心を高める。	チーム医療、栄養管理の必要性 生体・食品の視点からエネルギーの理解 栄養不良 PEM、過栄養、低栄養における生体反応 食品中の栄養素 栄養状態の評価 栄養補給法 ライフステージと栄養 栄養食事療法の基礎知識 循環器・消化器・腎臓・栄養代謝障害の栄養食事療法 術前・術後の栄養管理
	微生物学	1	30	1	前期	微生物と人間の生活の関係を理解した上で、病原微生物と感染症について学ぶ。 感染経路、免疫機能を学び、看護実践における感染症の予防を学ぶ。	微生物学の歴史、細菌の性質、真菌・原虫・ウィルスの性質、感染に対する生体防御機構(自然免疫・獲得免疫)、感染源・感染経路からみた感染症、感染症の予防(消毒と滅菌を含む)、感染症の診断と治療、感染症の現状と対策(院内感染を含む)、病原細菌・ウィルス・病原真菌・病原原虫と感染症

	薬理学	1	30	2	前期	病気に対して様々な薬、新しい薬が開発されている中、薬を使用したとき、薬がからだの中でどのような作用を示すか、ある効果を期待するときどのような作用をもつ薬を使用すればよいのか学び、薬に対する基礎知識を養う。	薬とは、薬理作用、薬物代謝 薬効に影響する因子 薬物の管理 抗感染症薬・抗がん薬・免疫治療薬、抗アレルギー薬・抗炎症薬、末梢での神経活動に作用する薬物、中枢神経に作用する薬物、心臓・血管系に作用する薬物、呼吸・消化器・生殖器系に作用する薬物、物質代謝に作用する薬物
	臨床薬理学	1	30	2	後期	薬物療法を受ける患者の安全と病気の治癒あるいは症状の改善に医薬品はどのような効果を発揮しているのか学ぶ。 処方箋や医薬品の情報源である添付文書の読み方を理解する。 医薬品の剤型や取扱い方法を知り、個々の薬の患者への提供を学ぶ。	医薬品の作用原理とその影響、 処方・調剤、輸液について 医薬品のリスクマネジメント 主な疾病に使用する薬剤 抗がん薬の臨床薬理 治験・C R C業務 オピオイド関連、外用薬、 感染症に対する治療薬・消毒薬の取り扱い方法及び患者指導
	臨床医学特論	1	30	2	前期	人間の健康障害に対する治療法の基礎を学ぶ。	手術療法 体液・麻酔の管理 リハビリテーション 内視鏡治療 放射線療法 医療機器の原理と実際 歯科衛生、輸血療法、移植医療など
	病理学	1	30	1	後期	【病理学】 正常状態と比較しながら病理的な状態を理解する。 系統的に病理学的变化の視点から理解を深める。  【臨床検査】 健康状態や健康障害を把握するための検査の目的・方法・測定値の意味を理解し、看護にいかせる基礎的知識を養う。	先天異常、代謝障害、循環障害、炎症、腫瘍 変性、壊死、過形成、免疫、老化、 呼吸器・消化器・循環器・血液造血器・腎泌尿器・生殖器・乳腺・脳神経・筋肉系の病理  臨床検査総論 血液検査、生化学検査、一般検査(尿・便)、輸血と検査、免疫血清学的検査・生化学的ホルモン、生理検査、 検体の取扱いと注意点 検査データの意味と看護への活用
	病態生理学 I	1	30	1	後期	脳神経機能・運動機能の障害を引き起こす疾病の原因、検査、治療法について理解する。	脳神経機能障害の病態・診断・治療 運動機能障害の病態・診断・治療

	病態生理学 II	1	30	1	後期	消化吸收機能・栄養代謝機能・内部環境調節機能・排泄機能の障害を引き起こす疾病の原因、検査、治療法について理解する。	消化吸收機能障害の病態・診断・治療 栄養代謝機能障害の病態・診断・治療 内部環境調節機能（腎機能：体液PH調節、内分泌系）障害の病態・診断・治療、 腎泌尿器系の機能障害の病態・診断・治療
	病態生理学 III	1	30	2	前期	循環機能・呼吸機能の障害を引き起こす疾病の原因、検査、治療法について理解する。	循環機能障害の病態・診断・治療 呼吸機能障害の病態・診断・治療
	病態生理学 IV	1	30	2	前期	身体防御機能・感覚機能・性生殖機能の障害を引き起こす疾患の原因、検査、治療法について理解する。	身体防御機能障害の病態・診断・治療 感覚機能障害の病態・診断・治療 性生殖機能障害の病態・診断・治療
健康支援と 社会保障制度							
	総合医療論	1	15	1	前期	医学のあゆみや健康と疾病、医療体制について理解する。さらに現代医療の諸問題を学ぶ。	保険・医療に携わる基本的内容（生命・健康・病気とは） 医療の歴史 医療と社会との関係・医療制度 現代日本の医療システム 最先端医療の現用 医療を受ける患者の立場の理解（自己決定権、情報公開、インフォームドコンセント、診療録開示） 医療をめぐる新しい動向と望ましい医療のあり方
	公衆衛生	1	15	3	前期	公衆衛生の基本理念とそれに基づく調査、活動を理解する。静岡市の特徴を意識し、生活者の健康増進に対応した法制度及び地域の保健活動の実際を理解する。 学童に通う対象が、心身ともに健やかに成長発達でき、生涯の生活習慣を獲得していくための法と学校保健活動を理解する。	健康の概念と公衆衛生、公衆衛生の課題、衛生行政と地域保健、産業保健 人口統計と保健統計 疫学、感染症の動向、国際保健 喫煙と健康、口腔と健康 食品衛生、環境保健 母子保健の施策と保健活動の実際、成人・高齢者保健の施策と保健活動の実際、学校保健の施策と保健活動の実際

	社会福祉論 I	1	15	2	後期	人間の健康に関わり、生活を支援するため必要な、社会保障や社会福祉の制度に関する知識を学ぶ。	社会保障の法制度、現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向、医療保障制度の沿革、構造と体系、健康保険と国民健康保険、高齢者医療制度、保険診療のしくみ、公費負担医療、国民医療費、介護保険制度の背景と介護保険の歴史、介護保険制度の概要・課題と展望 所得保障制度のしくみ、年金保険制度、社会手当、労働保険制度 公的扶助、貧困・低所得問題と公的扶助制度 生活保護制度のしくみ、低所得者対策、近年の動向
	社会福祉論 II	1	15	3	前期	人間の健康に関わり、生活を支援するために必要な、社会福祉の分野とサービスを理解する。患者、家族、医師、看護師の中で、MSW の存在意義や医療制度改革における、MSW の役割変化を理解する。 新たなテーマ(インフォームドコンセント、セカンドオピニオン等)における MSW の関わりについて理解する。	社会福祉の分野とサービス 高齢者福祉、障害者福祉、児童家庭福祉 社会福祉実践と医療・看護 社会福祉援助、援助技術(個・集団)検討課題、連絡の重要性 医療現場での MSW エピソード 病診連携事業の紹介 福祉制度との関連事項
	暮らしのしくみ	1	30	1	後期	暮らしのしくみについて理解する。地域の暮らしを包括的に支えるためのしくみを考える。暮らしの中で起こるさまざまな課題を解決または改善するための制度やサポートがわかる。	暮らし、暮らしの中で起こる困りごと、困りごとを解決するための制度・行政の役割を学ぶ。事例を通してごみ問題、防災対策、家庭でおこる水問題などから課題を見つけ、多様な人々の暮らす都市づくりを考える。
	医療関係法 律論	1	15	2	後期	看護という職業に携わるものとして必要な法規の基礎を学ぶ。また、医療を提供する枠組みの全体像およびそれぞれの仕組みの関連性について理解する。	看護と法・看護師の法的位置づけ(資格・業務)、看護師の業務と責任(責任体系、民事責任、刑事责任) 医療の提供と看護(医療制度、医療保障制度)、関係法規(医療法、薬事法の理念、保健師助産師看護師法、医師法、薬剤師法、労働基準法、労働条件の原則、臓器移植法、診療放射線技師法、臨床検査技師、衛生検査技師等に関する法律、理学療法士および作業療法士法)、患者の権利、インフォームドコンセント、診療記録情報公開

◆専門分野

科目	単位数	時間数	開講学年	開講期	ねらい	学習内容
基礎看護学	11	300				
看護学概論	1	30	1	前期	「看護とは」を知り、看護の目的・対象・方法について理解し、看護専門職者としての役割を理解する。	看護とは 看護の目的 看護の対象 看護の方法 看護の歴史 主要な看護理論家の看護概念の理解
看護の方法 I	1	30	1	前期	<p>【看護技術・観察とは】 看護技術とは何か、看護技術を学ぶとはどういうことかを意識できる。</p> <p>【話す・聞く】 看護におけるコミュニケーションを理解する。</p> <p>自己のコミュニケーションを振り返る方法を学ぶ。</p> <p>【感染予防】 感染予防の必要性を理解し、具体的方法を学ぶ。</p> <p>看護師教育の技術項目に応じたレベルに到達する。</p> <p>57 スタンダードプリコーションに基づく手洗い</p> <p>58 必要な防護用具の選択・着脱</p> <p>59 使用した器具の感染防止の取り扱い</p> <p>60 感染性廃棄物の取り扱い</p> <p>61 無菌操作</p>	看護技術とは 看護技術を習得する過程 ポートフォリオについて チューター制度の活用 看護における観察 コミュニケーションとは コミュニケーションの構成要素とプロセス 感染防止の基礎知識（感染の成立要件、院内感染と防止策） 感染予防策（スタンダードプリコーション、経路別感染予防策） 洗浄・消毒・滅菌の基礎知識 標準予防策に基づく手洗い 必要な防護用具の選択・着脱 器具の取り扱い、感染性廃棄物の取り扱い、無菌操作 ■学内演習 看護場面におけるコミュニケーション、プロセスレコードを用いた検討 衛生的手洗い、ゴーグル・手袋・ガウン等の選択、ガウンテクニック、滅菌手袋の着脱、無菌操作、感染性廃棄物の取り扱い
看護の方法II	1	30	1	前期	看護過程を展開する際に基盤となる考え方を学ぶ。	看護過程の構成要素 問題解決過程 クリティカルシンキング 倫理的考慮と価値判断 看護におけるリフレクションの意義と方法について理解する。 リフレクションと看護

					<p>看護における観察の方法を理解する。 看護における記録・報告の意義とその方法について理解する。</p> <p>看護師教育の技術項目に応じたレベルに到達する。 50 バイタルサインの測定 52 フィジカルアセスメント 29 体温調節の援助</p>	<p>自己への気づき 批判的分析 正確に測定する意味 観察（正常に呼吸する、体温を正常範囲内に維持する） 記録・報告の意義と方法</p> <p>■学内演習 脈拍・呼吸・体温の測定 体温調節 経過記録 リフレクション</p>
看護の方法III	1	30	1	前期	<p>人間にとっての「食・排泄」の意義を理解し、援助の必要性と技術を学ぶ。 患者の状況に合わせて適切な食と排泄の援助を提供できる思考と技術を身につける。 患者の身体・精神状態にあつた排泄援助について、アセスメントと計画を立て、実践を通して羞恥心に配慮しながら安全な排泄援助について考える。</p> <p>看護師教育の技術項目に応じたレベルに到達する。</p> <p>3 食事介助（嚥下障害のある患者を除く） 4 食事指導 5 経管栄養法による流動食の注入 6 経鼻栄養チューブの挿入 7 排泄援助（床上・ポータブルトイレ・オムツ等） 8 膀胱留置カテーテルの管理 9 導尿又は膀胱留置カテーテルの挿入 10 洗腸 11 摘便 69 安楽な体位の調整</p>	<p>食事の意義、栄養状態の評価、摂食行動のアセスメントと援助、誤嚥予防、食事療法、非経口的栄養法の理解と実際</p> <p>生理的排泄の意義、排泄物の観察、自然な排泄を促す援助方法、排泄行動のアセスメントと援助方法、床上排泄の援助方法</p> <p>■学内演習 食事介助、経管栄養法 尿器・便器での援助、浣腸、一時的導尿</p>
看護の方法IV	1	30	1	前期	<p>療養環境を整える意義と環境調整に必要な知識・技術を学ぶ。 人間の日常生活を作り出す生活動作を理解し、その遂行に役立つ援助の方法を学ぶ。運動と休息のバランスを維持す</p>	<p>生活環境とは 看護における生活環境 病床の作り方と実際 臥床患者のリネン交換の実際 ベッド周囲の環境整備 事故防止の技術 日常生活動作</p>

					<p>ることの意義とその方法について学ぶ。</p> <p>生活するその人にとっての快適な療養環境を整備し、安全かつ安楽に日常生活動作が遂行できるような援助の方法を、事例を通して計画し実践できる。</p> <p>看護師教育の技術項目に応じたレベルに到達する。</p> <p>1 快適な療養環境</p> <p>2 畏床患者のシーツ交換</p> <p>13 車椅子での移送</p> <p>14 歩行・移動介助</p> <p>15 移乗</p> <p>16 体位変換・保持</p> <p>18 ストレッチャー移送</p> <p>69 安楽な体位の調節</p> <p>70 安楽促進・苦痛の緩和のためのケア</p> <p>71 精神的安寧を保つためのケア</p>	<p>人間の成長発達と姿勢・運動の変化</p> <p>人間にとっての活動と休息活動、運動へ生活動作を遂行させるための援助</p> <p>ボディメカニクス</p> <p>体位変換の技術、良肢位</p> <p>移動、移送の援助</p> <p>睡眠、安楽への援助</p> <p>ポジショニング</p> <p>罨法</p> <p>■学内演習</p> <p>ベッドメーキング、畏床患者のリネン交換、環境整備</p> <p>体位変換・車椅子への移乗、ストレッチャーへの移動、移送</p> <p>安楽な姿勢、温罨法と冷罨法</p>
看護の方法V	1	30	1	後期	<p>人間にとって清潔を保持することや衣生活を整えることの意義・知識・技術を学ぶ。</p> <p>人間にとっての清潔の意義について理解し、患者の状況に合わせて援助を提供できるようその方法について計画・実施する。</p> <p>看護師教育の技術項目に応じたレベルに到達する。</p> <p>19 手浴足浴</p> <p>20 整容</p> <p>21 点滴・ドレーンを留置していない患者の寝衣交換</p> <p>22 入浴・シャワー浴の介助</p> <p>23 陰部の保清</p> <p>24 清拭</p> <p>25 洗髪</p> <p>26 口腔ケア</p> <p>27 点滴・ドレーンを留置している患者の寝衣交換</p>	<p>衣生活への援助</p> <p>衣生活の意義・病衣の条件・身だしなみ</p> <p>寝衣交換・輸液ラインが入っている場合</p> <p>清潔への援助</p> <p>身体の清潔の意義・結髪洗髪</p> <p>全身清拭・足浴とフットケア</p> <p>■学内演習</p> <p>寝衣交換、全身清拭、手浴・足浴、洗髪・整容、口腔ケア、陰部洗浄</p>

	看護の方法VI	1	30	1	後期	<p>与薬援助時の看護師の役割・技術について理解する。 診療検査時の看護の役割・技術について理解する。</p> <p>看護師教育の技術項目に応じたレベルに到達する。</p> <p>64 患者の誤薬防止策の実施 38 経口薬の投与 39 経皮・外用薬の投与 40 坐薬の投与 45 薬剤の管理 53 検体（尿、血液等）の取扱い 56 検査の介助 55 静脈血採血 62 針刺し事故の防止・事故後の対応</p>	<p>薬物療法に必要な基礎的知識、与薬における看護師の役割、経口的与薬法、非経口的与薬法</p> <p>■学内演習 経口薬の投与 経皮・外用薬の投与 座薬の投与 検査の介助 検体の取り扱い 静脈血採血</p>
	看護の方法VII	1	15	1	後期	<p>ヘルスアセスメントについて 看護における重要性、フィジカルアセスメントの関係性を理解し、健康の査定を行うための具体的な方法を学ぶ。</p> <p>看護師教育の技術項目に応じたレベルに到達する。</p> <p>50 バイタルサインの測定 51 身体計測 52 フィジカルアセスメント</p>	<p>■学内演習 問診・視診・打診・触診・聴診の技術 血圧測定 バイタルサイン測定 循環・腹部・運動機能のフィジカルアセスメント</p>
	看護過程演習	1	30	1	後期	看護の専門的思考について学ぶ。看護実践の基礎となる看護過程を、事例を通して実践し理解する。	看護過程の構成要素を理解する。エンダーソンの看護論に基づき、アセスメントを行う。事例を用いて看護過程の展開を体験する。
	看護研究	1	30	3	後期	研究力につける、研究力をいかす基礎的な考え方や方法について学ぶ。	看護研究の意義・目的 研究の種類・プロセス 研究における倫理的配慮 事例検討を通してこれからの自分の仕事の価値を見出す
	看護管理	1	15	3	前期	看護活動が円滑に行われるため必要な看護管理について学び、看護職者としてのリーダーシップについて学ぶ。	看護管理の基礎・管理とは 看護管理部門の役割 リーダーシップとマネジメント

地域・在宅看護論	6	150				
地域・在宅看護論概論	1	15	1	前期	地域で暮らす人々について理解し、その方々のサポートについて理解する。	地域・在宅看護の意義と必要性、地域・在宅看護の対象・場の理解、暮らしと地域・在宅看護、暮らしと生活、地域・在宅での療養の選択、地域・在宅ケアの一環としての在宅看護、地域・在宅看護の機能と特質、担い手と看護を提供する場、在宅看護の倫理と基本理念、権利保障、在宅看護の目的と機能
地域・在宅看護論演習	2	45	1	後期	地域で暮らす人々について、地域活動の実際から理解する。	地域で暮らす人々の多様な場（地域看護活動をしている場：施設など）、地域で暮らす人々の暮らしの特徴、地域で暮らす人々の「暮らし・生活」に対する思い、人々が「暮らす」のをサポートする地域医療・システムの多様性と主体性 地域・在宅看護論実習・演習や他科目との関連などの振り返りと情報共有
地域・在宅看護の方法Ⅰ	1	30	2	前期	地域・在宅看護の対象である療養者と家族の役割や関係性を理解する。	地域・在宅看護の対象の理解 家族関係論・役割・影響・変化の理解、様々な対象と家族について理解（子供と家族、女性と家族、男性と家族、成人と家族、高齢者と家族、療養者と家族、障がい児・者と家族）在宅看護における人間関係の基本、人間関係づくり、家族へのアプローチ ■専門職連携教育 介護士・社会福祉士との事例検討
地域・在宅看護の方法Ⅱ	1	30	2	後期	対象が望ましい暮らしをするための看護実践について理解する。  看護師教育の技術項目に応じたレベルに到達する。 8膀胱留置カテーテルの管理 35褥瘡予防ケア 36創傷処置	訪問看護における援助関係の基本、生活援助の方法と技術 医療管理を必要とする人への看護、在宅医療と社会保障、終末期在宅看護、在宅酸素療法、在宅人工呼吸療法、膀胱留置カテーテルの管理、在宅経管栄養法、在宅中心静脈栄養法、在宅創傷管理

					45 薬剤の管理（麻薬） 68 医療機器の操作・管理（人工呼吸器）	地域・在宅における終末期看護の特徴、暮らしと療養を支える看護制度（医療保険と介護保険）
地域・在宅看護の方法III	1	30	3	後期	暮らしや生活者の視点をもち、地域包括ケアシステムの中の看護の役割を理解する。	地域・在宅看護における社会保障制度やサポートシステムを理解し、制度を基に訪問看護ステーションの設立 訪問看護ステーション設立後、事例をもとに看護師の視点から、支援マップの作成 在宅療養者と家族が抱える問題の明確化、問題解決に至る具体的サポートの明確化、療養者と家族がよりよく生きるための多職種連携と協働、療養者及び家族の主体性や価値観の尊重と倫理的配慮
成人看護学	6	165				
成人看護学概論	1	15	1	後期	成人看護学の対象である成人（大人）について、社会において生活を営み人生を歩んでいる生活者として理解する。成人期を人間のライフサイクル・成長発達の視点で理解する。成人の生活と健康を関連して考え、成人各期の健康問題および生活と健康を守りはぐくむ看護について学ぶ。成人の健康レベルや経過に合わせた看護について学ぶ。	成人看護の対象である成人（大人）について、成長・発達過程からみた成人の特徴 成人期の健康を支援する理論の活用 成人の保健・医療・福祉政策と健康支援
成人看護の方法I	1	30	2	前期	慢性期患者の看護	患者が慢性の病と共に、その人らしく生きられるための看護を学ぶ。 事例を用いて看護について考える。 演習：事例患者への退院指導
成人看護の方法II	1	30	2	前期	周術期患者の看護	心身に大きな影響を受ける手術療法に臨む患者が、手術前後を良好に経過でき、その後の生活の再調整が図れる看護を学ぶ。
成人看護の方法III	1	30	2	後期	クリティカルな状態にある対象の看護  看護師教育の技術項目に応じたレベルに到達する。 47 緊急時の応援要請 48 一次救命処置	急激な生命の危機状態にある患者の、生命と生活の質を維持する看護を学び、緊急時に自己のとる行動を考える。

	成人看護の方法IV	1	30	2	後期	がん・終末期患者の看護 看護師教育の技術項目に応じたレベルに到達する。 66 放射線の被ばく防止策の実施 67 人体へのリスクの大きい薬剤の暴露予防対策	成人期の役割を果たしながら、がんと向き合いその人らしく生きられる看護を学ぶ。 がんにより患者が人生を終えようとしている時期に、生活の質を保ち、苦痛を少なく、その人にとって良い死を迎える看護を学ぶ。
	成人看護の方法V	1	30	2	後期	臨床で行われる専門性の高い看護技術を、体験的に学ぶ。 看護師教育の技術項目に応じたレベルに到達する。 54 簡易血糖測定 41 皮下注射 30 酸素吸入法の実施 32 口腔内・鼻腔吸引 33 気管内吸引 34 体位ドレナージ 36 創傷処置 37 ドレーン類挿入部の処置 12 ストーマ管理 68 医療機器の操作・管理 43 静脈路確保・点滴静脈内注射 44 点滴静脈内注射の管理 45 薬剤の管理 46 輸血の管理を実施	■学内演習 簡易血糖測定、皮下注射 呼吸音聴診、酸素吸入法、気道内加温、口腔内・鼻腔内吸引 気管内吸引、体位ドレナージ 心音聴診、心電図 創傷処置、ドレーンの管理 ストーマ管理 筋肉内注射、静脈路確保 点滴静脈内注射 点滴静脈内注射の管理 静脈血採血
老年看護学		4	90				
	老年看護学概論	1	15	1	後期	老年期にある対象の特徴と社会の変遷を理解し、老年看護の機能と役割を学ぶ。	老年期にある対象の理解 高齢者が地域で暮らしていくための支援と理解 老年看護の目標・役割の理解 ■学内演習 地域で暮らす高齢者との関わり（コミュニケーション） ■専門職連携教育 高齢者を取り巻く多職種との役割の理解（看護師・介護福祉士・社会福祉士を目指す学生との交流）
	老年看護の方法I	1	30	2	前期	老年期にある対象の日常生活力とそれに及ぼす影響を理解し、健康生活への援助について学ぶ。	高齢者の健康生活を維持するための援助 認知症とともに生きる高齢者の看護

					看護師教育の技術項目に応じたレベルに到達する。 4 食事指導 26 口腔ケア（義歯） 7 排泄援助（オムツ） 11 摘便 14 歩行介助（杖歩行） 17 自動・他動運動（自動運動） 20 整容（爪切り） 65 安全な療養環境の整備	■学内演習 高齢者疑似体験、嚥下機能訓練、食事形態の工夫、義歯の着脱・手入れ、おむつ選択・着脱、摘便、杖歩行、自動運動、爪切り
老年看護の方法II	1	15	2	後期	人生の最終段階にある高齢者の看護するための方法を学ぶ。  看護師教育の技術項目に応じたレベルに到達する。 69 安楽な体位の調整 70 安楽の促進・苦痛の緩和のためのケア 35 褥瘡予防ケア	高齢者へのエンドオブライフケア、高齢者の死のとらえ方、死の迎え方の意向・看取りの意向を尊重した看護、死後のケア、グリーフケア、人生の最終段階にある高齢者・家族への看護実践の提案 ■学内演習 ポジショニング
老年看護の方法III	1	30	2	後期	治療を受けながら生活していく高齢者を理解し、看護実践するための方法を学ぶ。  看護師教育の技術項目に応じたレベルに到達する。 8 膀胱留置カテーテルの管理 15 移乗介助 16 体位変換・保持 17 自動・他動運動 38 経口薬 65 安全な療養環境の整備（転倒転落外傷予防） 69 安全な体位の調整 70 安楽の促進・苦痛の緩和	薬物療法を行いながら生活していく高齢者の看護 老化による生活への影響から手術療法を選択した高齢者の看護（事例展開） ■学内演習 術前・術後看護、退院指導
小児看護学	4	105				
小児看護学概論	1	15	2	前期	地域に暮らす子どもとその家族を取り巻く環境を理解する。また、社会の動きによる暮らしへの影響を学び、子どもの権利を尊重するための姿勢を学ぶ。	小児看護の対象 小児看護の目標と役割 小児と家族の諸統計、こどもと医療、小児をめぐる法律と政策、小児保健・福祉行政の推移、母子保健、小児看護における倫理、小児看護の課題 小児と成長・発達（特徴）小児の成長・発達に影響する因子、小児と社会、小児をめぐる問題（児童虐待）

	小児看護の方法I	1	30	2	前期	子どもの成長・発達の特徴や小児を取り巻く環境や様々な問題を知り、子どもが健やかに育つために必要な看護を学ぶ。	子どもと絵本、小児の成長・発達の評価、新生児期の特徴と看護、乳児の特徴と看護、小児の栄養と離乳食、幼児の特徴と看護、幼児の生活援助離乳食を作る、乳幼児の予測される事故、静岡市の子育て支援、学童の特徴と看護、遊びの工夫、思春期の特徴と看護、乳幼児の生活援助体験(おんぶ、抱っこ、バギー体験、更衣、おむつ交換)、小児の理解を深める
	小児看護の方法II	1	30	2	後期	小児期に特有な疾患及び治療の実際を理解し、必要な看護を学ぶ。	小児によくみられる健康障害 小児に特有な疾患の経過や病態の特徴、手術を受ける必要のある健康障害、発症の時期・主要症状・手術療法の必要性・手術に伴う危険・周手術期における治療の実際 治療が困難な健康障害 新生児の疾患、低出生体重児に起こりやすい疾患と問題、健康障害を抱えた子どもと家族の理解、在宅で療養する小児とその家族の理解、事例展開と看護の実際の理解
	小児看護の方法III	1	30	2	後期	あらゆる状況や場における子どもと家族の健康な暮らしを理解し、必要な看護を実践できる能力を養う。  看護師教育の技術項目に応じたレベルに到達する。 44 点滴静脈内注射の管理 50 バイタルサインの測定 51 身体計測	健康障がいが子どもと家族に及ぼす影響、子どもにととのの病院環境と看護、健康レベルに応じた小児看護の実際(急性期、慢性期、周手術期、終末期、感染症、在宅療養中) ハイリスク新生児と家族の看護、小児の事故、救急救命処置時の看護、小児の虐待と看護、ここに障がいのある子どもの看護、プレパレーションの実際、小児看護に必要な看護技術(バイタルサイン測定・身体計測、輸液療法・身体抑制の実際) 健康障がいのある小児と家族の地域における看護

母性看護学	4	105				
母性看護学 概論	1	15	2	前期	多様な性について理解する。また、性と生殖に関わる社会の動向を知り、生殖医療における倫理観を養う。	母性の概念 母性の対象理解、多様な性 父性と家族の役割 母性看護の目標と役割、リプロダクティブヘルス/ライツ 生殖医療における生命倫理と看護倫理、母性をめぐる社会問題、母子保健の変遷、動向、法律
母性看護の方法Ⅰ	1	30	2	前期	ウイメンズヘルスを支える看護を理解する。女性の一生をライフサイクルを切り口にして、ライフステージ各期における健康と意思決定を支える看護を学ぶ。	女性のライフサイクルとウイメンズヘルス、思春期・成熟期・更年期・老年期女性の健康と看護、リプロダクティブヘルスケア、遺伝相談、地域における健康教育  演習（助産科と協働）女性の一生を支える看護のシミュレーション
母性看護の方法Ⅱ	1	30	2	後期	地域で暮らす女性の産み育てを支える看護を理解する。また、対象者の状態を系統的にアセスメントし、看護を実践するための力を養う。  看護師教育の技術項目に応じたレベルに到達する。 4 食事指導 28 新生児の沐浴・清拭 69 安楽な体位の調整 70 安楽の促進・苦痛の緩和のためのケア	妊娠の成立と胎児の性分化 妊娠の生理と身体の変化 妊娠の経過と胎児の発育、妊娠健康診査、妊娠期における看護 産褥の生理と身体の変化、産後の健康診査、産褥期における看護、新生児期における看護 演習（妊娠、産婦、産褥婦に必要な看護技術）
母性看護の方法Ⅲ	1	30	2	後期	産み育てに障害のある人々の特徴や、生活に及ぼす影響を理解し、必要な看護を実践するための力を養う。  看護師教育の技術項目に応じたレベルに到達する。 28 新生児の沐浴・清拭	妊娠の異常、妊娠期の異常と看護、ハイリスク妊娠の看護 分娩の異常、分娩期の異常と看護、産褥期の異常の看護、乳房トラブルの看護、産後の精神障害の看護、死産により児を亡くした褥婦と家族の看護、不妊治療と看護、新生児の異常と看護（低出生体重児、高ビリルビン血症）演習（新生児の清潔）

精神看護学	4	90			
精神看護学概論	1	30	1	前期	精神看護学の基盤となる「こころ」を様々な視点から理解する。
精神看護の方法Ⅰ	1	15	2	前期	精神障害をもつ人についての理解を深め、患者看護の基本を学ぶ。
精神看護の方法Ⅱ	1	30	2	前期	地域におけるケアと支援、看護者の心のケアの実際について学ぶ。
精神看護の方法Ⅲ	1	15	2	後期	こころの健康障害をもつ人の地域生活を支える援助を学ぶ 精神科における入院治療の意味を理解し、看護の役割について考える。

						支援、多職種連携の実際、災害とこころのケア、災害時のメンタルヘルスと DPAT の活動
看護の統合と実践	4	90				
医療安全	1	15	2	前期	医療・看護の安全を保つこと、事故防止の視点から対象の安全について学ぶ。  看護師教育の技術項目に応じたレベルに到達する。 63 インシデント・アクシデント発生時の速やかな報告	医療安全と看護の責務 医療安全施策と医療の質の評価、事故発生のメカニズムと防止対策、ヒューマンエラー・メディケーションエラー 医療機関における安全対策 医療事故後の対応、感染の危険を伴う病原体への暴露と防止、院内感染の実際、感染症法、医療安全と実際の事故、医療安全にかかわる重要語句 ヒヤリハット事例での要因分析 (KYT)
災害看護	1	15	3	後期	災害時における看護活動について理解することができる。	災害看護概論 災害看護の定義と役割、災害のサイクルに応じた看護活動、災害時の看護活動の実際、CSCATT、トリアージ実演 地域防災、ハザードマップ
国際情報論	1	30	3	前期	国際社会に目を向け、多様な価値観・異文化の理解を深め、国際社会の情勢から看護に期待される役割を考える。	国際看護を学ぶ意義 諸外国の保健医療福祉の動向と課題、世界各国の医療制度 在日外国人における保健医療の課題、国際連合と持続可能な開発目標、世界の貧困と経済格差、HIVとスティグマ 国際社会とジェンダー、国際紛争とその地域に暮らす人々 文化人類学概要、医療人類学概説、看護の国際協力活動の実際、国際社会が抱える問題
看護技術の統合	1	30	3	後期	既習の知識・技術を統合し対象に応じた看護を実践する能力を養う。  看護師教育の技術項目に応じたレベルに到達する。 47 緊急時の応援要請 50 バイタルサインの測定 52 フィジカルアセスメント 69 安楽な体位の調整 70 安楽の促進・苦痛の緩和のためのケア	複数患者の事例に合わせた行動計画立案と時間の経過に合わせた計画の修正 事例の模擬患者への援助

臨地実習	30	1035			看護を展開するために必要な基礎的知識と実践を結びつけ、看護過程を展開する思考を育て、対象へよりよい看護を作り上げていく力を養う。	
基礎看護学実習Ⅰ	1	45	1	前期	看護専門職としてコミュニケーションの能力向上を図る。	病棟実習にて焦点患者とコミュニケーションを行い自己の傾向を振り返る 患者や関連する職種・人々の間のコミュニケーションについて、プロセスレコードを用いて振り返る。
基礎看護学実習Ⅱ	2	90	2	前期	患者とその周囲の事象を様々な角度から理解し、看護師として予測する力を養う。	機能障がいのある成人期の患者を中心に受け持ち、日常生活援助を看護師と体験する中でその根拠について結び付ける。
基礎看護学実習Ⅲ	2	90	2	後期	実施内容をリフレクティブに振り返ることで、知識を得る体験を積み重ねる。	機能障がいのある成人期の患者を中心に受け持ち、日常生活援助を看護師と体験する中で実施した援助についてより良いものの実践に向けて検証する。
地域・在宅看護論実習Ⅰ	2	90	I	後期	地域で暮らす人々について理解し、その方々のサポートについて理解する。	地域・社会(清水区・静岡市)で暮らす人々を知り、そこにある「暮らし」と「医療・看護」を考える。
地域・在宅看護論実習Ⅱ	3	90	3	前期 後期	地域に暮らす医療・看護を必要とする人々に対する継続看護・多職種連携・看看連携や予防的視点の看護などを実践から学ぶ。	訪問看護ステーションや退院支援などから暮らしにおける看護や継続看護について理解する。 地域の人々に健康を守る看護について理解する。
成人看護学実習	3	90	3	前期 後期	急性期にある対象への看護を考え、急性の経過に合わせた看護を実践する。	急性期患者の看護 手術療法を受ける患者の看護
老年看護学実習Ⅰ	2	90	2	後期	高齢者の暮らしを支援するために高齢者の特性を生活と関連付けて理解し尊重した援助を行う。 自己の高齢者観を深める。	一人の高齢者を受けもち対象の生活を整える看護を学ぶ。 処置や治療の有無・疾患・病期に関わらず「生活」に視点を置いて看護を実践する。
老年看護学実習Ⅱ	3	90	3	前期 後期	高齢者の暮らしを支援するためのチーム連携を学ぶ。 高齢者看護の役割について考える。	複数人の看護者で複数名の患者の看護を計画・実施する。 受けもち患者を交代し、学生間で情報共有や意見交換しながら協力して看護実践をする。 病棟スタッフや他職種とも相談や情報共有することで、チームで患者を支援することを体験から学ぶ。

	小児看護学実習	3	90	3	前期 後期	社会の中で暮らす子どもの健やかな成長発達促進に向け、児とその家族に対する看護の役割について学ぶ。	地域にある認定こども園にて乳幼児と関わり、自己の小児観を表現する。 病院を受診するまたは入院している小児とその家族と関わり、小児の健康障がいが及ぼす影響を理解する。 発達障がい児支援施設や支援学校に通う小児とその家族と関わり、保健・医療・福祉・教育との連携を学ぶ。 小児期にある対象とその家族への地域における看護の役割を理解する。
	母性看護学実習	3	90	3	前期 後期	母性看護の対象を理解し、女性の健康の促進へ向けた看護の役割について学ぶ。	女性または母子を受けもち、対象の理解と対象に応じた看護を実践する。 地域における多職種連携
	精神看護学実習	3	90	3	前期 後期	様々な暮らしの中でこころを病む対象とその支援者とのかかわりの中から必要な支援について考え、精神看護を深める。	対象・看護者の相互関係の中での自己の振り返り 精神に障害のある対象への看護
	統合実習	3	90	3	後期	チーム医療を担う看護専門職の役割を理解し、臨床判断思考を活用しながら看護を実践する能力を養う	複数患者を受け持ち、チーム医療の一員として看護を考える。 他職種連携の中の看護の役割について考える。

## 課外活動(行事)

規定の課程（カリキュラム）以外の式典・履修ガイダンス等に参加することで学生の自発性や協調性を養う。さらに、学生間の親睦と学生個々の思考過程や自己決定力を育て、人間関係の良好な成立をめざす。

項目	時期	時間数と内訳(時間)			ねらい	
		1学年	2学年	3学年		
入学式	4月	6	2	2	2	本校の学生としての自覚をもち、看護を学ぶ動機づけとする。
ガイダンス	4月	26	14	4	8	当該学年の履修にあたって教育課程を理解する。
親睦会	4月	12	4	4	4	新入生を迎える、学生生活を紹介するとともに学生間の親睦を深める。
開校30周年記念行事	10月	6	2	2	2	学校の歴史に触れ、本校の価値や在り方を考える。
講演会	12月	6	2	2	2	広い視野から物事を見つめ、豊かな人間性を養う。
健康診断	4月 11月	6 6	2 2	2 2	2	自己の健康状態を知り、健康管理に対する認識を高める。
誓いの会 (仮名称)	5月	14	2	10	2	看護師になることを自ら決意し、他者へ表明する。
防災訓練	4月	6	2	2	2	災害時における安全確保のための適切な状況判断を身につけ、かつ敏速な集団行動がとれるように訓練する。
学年合同学習会・交流会	4月～ 3月	18	6	6	6	学年を越えた交流を通して、歩んできた過程を振り返り、未来の姿を描いて取り組む手がかりを得る機会とする。
看学祭	10月	48	16	16	16	学生自ら企画・運営することにより、主体性・創造性・協調性を養う。地域の人々との交流の機会とする。
国家試験対策	4月～ 3月	200	20	30	150	国家試験合格に向けての学習を行う。
卒業式	3月	6	2	2	2	所定の教育課程を修了し専門職業人としての自覚をもつ。
小計		360	76	84	200	

※ホームルーム、自己研修の時間を適宜もうける